村田沙耶香『コンビニ人間』

—— タイにおけるその翻訳と文化の受容をめぐって

Piyanuch WIRIYAENAWAT (ピヤヌット・ウィリヤエナワット :

Assistant Professor, Ph.D., Thammasat University)

✉ piyanuchwiri@gmail.com

(タイ)タマサート大学日本語講座助教授。大阪大学で2014年「夏目漱石作品の研究—対照的に描かれる男性たちを中心として—」で博士号取得。最近では日本近現代文学におけるジェンダーや日本文学における日本文化に対するタイ人の異文化への理解について研究。主な研究としては論文(共著)「吉本ばなな作品に対するタイ人日本語学習者の観点—『満月』の場合—」(バンコク: Journal of the Faculty of Arts Silpakorn University, 2018)、(共著)「樋口一葉『十三夜』における『鬼』のイメージを通してタイ人日本語学習者の異文化への理解をめぐって」(バンコク: Journal of Language and Culture, 2019)、「太宰治『ヴィヨンの妻』における『女給』のイメージとタイ人の『女給』との比較の場合」(バンコク: Journal of the Faculty of Arts Silpakorn University, 2020)など。

A Study of the Thai Translation and Cultural Reception of *Convenience Store Woman* by Sayaka Murata

This article examines the translation of *Convenience Store Woman* by Murata Sayaka, the original of which received the 155th Akutagawa prize for Japanese literature. In addition, this article analyzes how the Thai general public and Thai Japanese-learners read this work. The book was warmly welcomed by Thai readers, and was one of the five bestselling books in Thailand between 2018 and 2019. Many Thai readers commented that this work centered around the issue of “normality” in modern society, and some of them had sympathy for the protagonist. The translator faced a problem in rendering culture-specific terms in Thai, and she employed transliteration and specification strategies to resolve it, which helped Thai readers to comprehend Japanese culture more vividly. Unlike Thai readers in general, Thai Japanese-learners focused on a wide range of dimensions of the book, including its portrayal of Japanese work habits and occupational culture, gender in Japanese society, “convenience store” culture, and the problem of sub-replacement fertility rates. For these reasons it seems inarguable that this book is a masterpiece that reflects the richness of Japanese culture and society.

Keywords Murata Sayaka(村田紗耶香), *Convenience Store Woman*(『コンビニ人間』), Convenience store(コンビニ), Thai(タイ), Translation(翻訳)

1 はじめに

村田紗耶香『コンビニ人間』は、2016年『文藝春秋』の6月号に掲載後、文藝春秋社より同じ年の7月27日に刊行された。第155回(2016年)に芥川龍之介賞を受賞した小説である。本作品を執筆したきっかけについて、村田は次のように語っている。「最初は全く違う、オタクの女の子が主人公の話を書いていたの。でも、『消滅世界』っていう、前に書いた作品と被っているような気がしてきて。(略)たぶん、『しろいろの街の、その骨の体温の』みたいなリアルに近い世界と、『殺人出産』みたいなへんてこな世界をいつか融合させたい気持ちがあったんだと思う」。また、村田自身も執筆業の傍ら週三回、コンビニでのアルバイト店員をしていることで話題になった。『コンビニ人間』は一人称独白形式によって物語が展開し、以下のような粗筋である。36歳の未婚で、彼氏なしの主人公である古倉恵子は、大学の時代から18年間、正規の就職をせず、コンビニ「スマイルマート 日色町駅前」でアルバイトを続けていた。子供の頃から周りに少し奇妙がられる子供だった古倉は、コンビニでの同僚の話し方や服装などを模倣したり、妹の助言を聞くことによって、大学生になってようやく「普通」の人間らしく振る舞う方法を身に付けたと思っていた。コンビニのものを食べ、コンビニで働くことは、古倉に安心感をもたらしてくれた。そのような生活を続けていた時、婚活目的で新しく入って来た白羽という男性の出現によって、古倉の生活は変わってしまう。アルバイトをクビになった白羽と再会後、古倉と白羽は周囲に「同棲」と解釈されるような奇妙な同居生活を始める。そして、白羽に言われるままにコンビニの仕事を辞め、就活を始める。最後は、白羽に送られて就職の面接に向かう途中たまたま立ち寄ったコンビニで、古倉はコンビニ店員こそが自分の生きる道であることを意識させられた。そして、白羽と関係を解消し、結局コンビニに復職することを決めた。

本作品の評価として、まず、芥川賞を受賞した時の評価を取り上げたい。「芥川賞選評」では、奥泉光氏は「人は誰も自分の言葉を喋り、自らの欲望に従って行動しているように見えて、じつはほかの誰かの言葉や欲望を模倣しているにすぎない——と、このあたりの事情は数多の思索者によって論究されてきたわけだけれど、本作はこの人間世界の真相を、世間の常識から外れた怪物的人物を主人公に据えることで、鮮やかに、分かりやすく、かつ可笑しく描き出した」と述べている。(引用の下線は論者により付したものである。以下同様。)更に、堀江敏幸氏は「指のささくれを一本ずつ抜いていくような心理の詰め方が逆にユーモアを生み、異物を排除する正常さの暴力をあぶり出す。読後に差し込む不思議な明るさに、強く引き寄せられた」と述べ、小川洋子氏は「社会的異物である主人公を、人工的に正常化したコンビニの箱の中に立たせた時、外の世界にいる人々の怪しさが生々しく見えてくる。あるいは、明らかな奇人、白羽が主人公の部屋で一緒に暮らすうち、思いがけず凡庸な正体を露呈してしまう。あやふやな境界を自在に伸び縮みさせる、このあたりの展開を面白く読んだ」と評している。また、中村文

則氏は本作品の文庫本の解説で以下のように述べている。「社会では、『普通』に生きることを(ものすごく面倒で厄介に)要求されるが、主人公はその『普通の人生』もマニュアル化していると看破する」、「文学的な質の高さだけでなく、生き難さを増す『普通圧力』の社会に颯爽と登場した、まさに逆の意味で時代が生んだ小説でもある」など、『コンビニ人間』は現代社会の問題を描いた作品であり、主人公の生き方を通して「普通」、「正常」とは何かを問う作品として読まれてきている。

そして、従来の先行研究を整理すると以下のように纏められる。まず、村田の初期作品から取り扱われる「性」のテーマについて、その推移に注目した論文を見てみたい。矢野千晶氏(2017)は村田の文壇デビューした作品である『授乳』¹から『コンビニ人間』に至るまで描かれる「性」の問題と、主人公と他者との関係の変化を分析した。矢野氏は「村田作品全体にいえるのは、男らしさ、女らしさというジェンダー的固定観念を破壊しようとしていることである。男性優位社会や、異性愛主義、結婚や出産の強制など、村田は現代を生きる誰もが当然と思い込んでいる常識に疑問を持ち、抗う。そして異常を独自の解釈で正当化し、物語の中の人物だけでなく、読者をも納得させてしまう。正常と異常とは、表裏一体である。「コンビニ人間」は、古倉のような他者や社会との関わりを断ち切る人間が、異常者であることを曝し出しているのではない。むしろ、芥川賞選考委員が古倉を「世間の常識から外れた」、「まともな人間」でないと決めつけている現代社会に対して異常だと主張しているのではないか」と指摘している。

矢野氏の論考に似通った見解を示した飯田祐子氏(2019)は本作品における「ジェンダーとクイア」という概念に重点を置き、「近未来的な社会を描いた作品では、性行為から生殖に至るジェンダー役割の組み替えや破戒がなされ、性別のない空間や、「人間」というアイデンティティを破棄する世界も描かれてきた」、「『コンビニ人間』は、結婚や家族や性欲欲望や愛などという制度的要素をすべて消去する、過激で不穏な寓意的存在である」と論じている。また、橋本夏希氏(2019)は『コンビニ人間』と、『殺人出産』²及び『マウス』との比較を行いながら、村田作品の変遷に焦点を当て、村田作品の中における『コンビニ人間』の位置づけを考察した。橋本氏は「本作では普遍的な「普通」は存在しないことを描きながらも、同時に「人間が社会に適応する上で従うべき規範はコミュニティごとに存在している」という「普遍性」を提示することで、結果として社会の複雑な構造を浮き彫りにしているのである」と結論付けている。つまり、『コンビニ人間』は村田の初期作品から度々取り上げられている「ジェンダー的固定観念を破壊」する「性」の問題を提示しつつ、他作品とは異なったリアルな世界を舞台とした、現代社会の「正常」あるいは「普通」を問う作品だと言えよう。

次に、日本以外の国の反応や評価を見てみたい。本作品は芥川賞を受賞し、「時代が生んだ小説でも」あるため、日本の読者のみならず、世界各国の多くの読者に迎えられ

¹ 2003年に第46回群像新人文賞優秀賞受賞した作品である。

² 2014年に第14回センス・オブ・ジェンダー賞少子化対策特別賞を受賞した作品である。

ている。作品は英語翻訳も含め現在約30の言語に翻訳されている³。アメリカでは『Convenience Store Woman』というタイトルで刊行され、米雑誌『ザ・ニューヨーカー』(The New Yorker)が選ぶ「The Best Books of 2018」にも選ばれている⁴。アメリカではどのように本作品が受け入れられたかという点、渡辺由佳里氏はニューズウィーク(Newsweek)の日本版のサイトに「英語圏ではわかりにくい『コンビニ人間』の日本的背景」という題目の下で、次のように述べている。「英語圏の読者にも、恵子に与えられている「社会に適合するプレッシャー」に共感を覚え、惚れ込んでいる人はいる。(略)日本社会の閉塞感を実際に体験している日本人は、恵子が日常的に感じるプレッシャーを作者につぶさに説明してもらう必要はない。だが、日本社会を知らないアメリカ人読者が理解するためには、もっと恵子の心理描写が必要になる」アメリカでこの作品がベストセラーから遠い位置になった⁵のは、この「日本語と英語圏の文学における文化の差」に原因があると言えよう。日本では出版直後から爆発的な売れ行きを示したものの、英語圏であるアメリカではそうではなかったらしい。明らかに日米文化の違いが根底にあり、日本以外の外国人の読者がどれぐらい作品を理解できるかということに疑問がある。先程述べたように、英語以外にも『コンビニ人間』は約30の言語に翻訳され、タイ語翻訳もその中の一つに入っている。日本と同じアジア圏にあるタイでは、タイ人の読者は『コンビニ人間』をどのように読むのだろうか。本稿では、『コンビニ人間』のタイ語翻訳を検討しながら、タイ人の一般の読者と日本語学習者の読者の作品への読み、文化受容について明らかにしてみたい。

2 タイにおける評判

タイでの『コンビニ人間』は日本での発表から2年後の2018年10月に、長年編集やライイトノベルの翻訳に携わるパンウィモン・チターウィリヤクン氏によってタイ語に翻訳され、出版された。日本語の原本は2017年に刊行された『コンビニ人間』文庫本であった。タイ語翻訳版はA5サイズで、表紙の外観を【図1】に示す。

³ 例えば、中国語翻訳のタイトルは『人間便利店』、韓国語翻訳のタイトルは『편의점 인간』、フランス語翻訳のタイトルは『LA FILLE DE LA SUPERETTE』、ドイツ語翻訳のタイトルは『DIE LADEN HÜTERIN』などである。

⁴ 他の8作品は次の通りである。①“Confessions of the Fox” by Jordy Rosenberg ②“Ordinary People” by Diana Evans ③“Small Fry” by Lisa Brennan-Jobs ④“Florida” by Lauren Groff ⑤“Kudos” by Rachel Cusk ⑥“Freshwater” by Akwaeke Emezi ⑦“Immigrant, Montana” by Amitava Kumar ⑧“Asymmetry” by Lisa Halliday なお、英語翻訳は竹森ジニー氏が担当し、2018年6月12日、村田にとっては初の英訳作品としてアメリカで刊行された。

⁵ アメリカにおけるConvenience Store Womanの売り上げについて、渡辺由佳里氏は更に次のように述べた。「だが、発売から1カ月たった7月17日現在、『Convenience Store Woman』はアマゾンのハードカバーランキングで4261位、有料キンドル版で7800位とベストセラーには程遠い位置にある。」また、売り上げの低いもう一つの理由は「小説の長さや形式の問題もあるかもしれない」と渡辺氏は指摘した。

【図1】タイ語翻訳版の表紙

<http://www.animagshop.com/product/689>

現在(2020年11月時点)出版されている、村田紗耶香のタイ語翻訳の作品はこの作品のみである。タイ語翻訳版の出版社であるanimag⁶社へのインタビューによると、『コンビニ人間』は芥川賞を受賞し評価が結構高かったため、本作品をタイ語に翻訳することにしたとのことであった。タイで日本の現代小説が盛んに翻訳されている中、『コンビニ人間』の位置付けはどのようなものなのか。ここで、タイ紀伊國屋書店の調査による、2018年と2019年におけるタイ語に翻訳された日本の小説のベストセラー本の一覧を取り上げ、【表1】と【表2】で示す。

【表1】ベストセラー本の一覧、その一(期間：2018/01/01～2018/12/31)⁷

No.	書名	著者
1	ナミヤ雑貨店の奇蹟	東野圭吾
2	また、同じ夢を見ていた	住野よる
3	コーヒーが冷めないうちに	川口俊和
4	コンビニ人間	村田紗耶香
5	カラフル	森絵都
6	ぼくは明日、昨日のきみとデート	七月隆文
7	旅猫リポート	有川浩
8	未来のミライ	細田守
9	あん	ドリアン助川
10	君の臓腑をたべたい	住野よる
11	彼女と彼女の猫	新海誠
12	村上春樹、河合隼雄に会いにいく	村上春樹、河合隼雄
13	去年の冬、きみと別れ	中村文則
14	国境の南、太陽の西	村上春樹
15	容疑者Xの献身	東野圭吾
16	夜葬	最東対地
17	イニシエーション・ラブ	乾くるみ
18	Never Let Me Go	カズオ・イシグロ
19	螢・納屋を焼く・その他の短編	村上春樹
20	黄金仮面	江戸川乱歩

⁶ animag社の主なタイ語翻訳作品はライトノベルだが、小説を翻訳した経歴もある。例えば、新海誠氏の『ほしのこえ』、『秒速5センチメートル』、『言の葉の庭』また、葦舟ナツ氏の『ひきこもりの弟だった』などである。

⁷ 紀伊国屋書店タイ支店によるベストセラー本のランキングは30位までであったが、便宜上、本稿ではそこから上位20位までを取り上げることとする。

【表2】ベストセラー本の一覧、その二(期間：2019/01/01 - 2019/12/31)

No.	書名	著者
1	ナミヤ雑貨店の奇蹟	東野圭吾
2	コーヒーが冷めないうちに	川口俊和
3	ときどき旅に出るカフェ	近藤史恵
4	コンビニ人間	村田紗耶香
5	パンとスープとネコ日和	群ようこ
6	天気の子	新海誠
7	言の葉の庭	新海誠
8	国境の南、太陽の西	村上春樹
9	秘密	東野圭吾
10	ノルウェイの森	村上春樹
11	イニシエーション・ラブ	乾くるみ
12	手紙	東野圭吾
13	ぼくは明日、昨日のきみとデート	七月隆文
14	時給三〇〇円の死神	藤まる
15	また、同じ夢を見ていた	住野よる
16	カッコウの卵は誰のもの	東野圭吾
17	秒速 5 センチメートル	新海誠
18	容疑者Xの献身	東野圭吾
19	旅猫リポート	有川浩
20	私のクラスの生徒が、一晩で24人死にました。	日向奈くらら

二つの表から、二年間連続でランキングを保ったのは、第一位、東野圭吾の『ナミヤ雑貨店の奇蹟』と第四位、村田紗耶香『コンビニ人間』の二作であった。作品がこの二年間でランキングにもっとも多く入った作家は言うまでもなく東野圭吾⁸である。タイのFacebookに「Higashino Keigo 神秘と奇跡」⁹というファンクラブのグループがあることは、東野圭吾の高い人気を示す証であろう。村田紗耶香『コンビニ人間』は先に言及した米国での売り上げの状況と比較してみると、タイでは売り上げが比較的高いといえる。また、『コンビニ人間』が村田の唯一のタイ語に翻訳された作品であるにもかかわらず、タイで2018年10月に刊行されたことを考えると、本作品はタイ人読者の間で人気の高い日本の翻訳小説の一つであると言えよう。

さて、このような人気の高い作品を一般のタイ人はどのように読むのかということについて触れてみたい。翻訳されたタイ語版の裏表紙を見ると、以下のように書いて

⁸ ランキングを入った作品を数えてみると、次のような結果が出た。(ちなみに、重なっている作品は数えないことにした。最初の名のみ注目とする。)1.東野圭吾(5作品)2.新海誠と村上春樹はそれぞれ4作品であった。

⁹ これは「Higashino Keigo ความลึกลับและความมหัศจรรย์」というタイ語から訳したものである。2020年11月現在約1,600人のメンバーがいる。

ある。

“ฟรุ๊ต๊ะ เคโอะ หญิงสาววัยสามสิบหกซึ่งยังไม่แต่งงาน หลังสำเร็จการศึกษาจากมหาวิทยาลัยก็ทำงานพิเศษที่ร้านสะดวกซื้อ เป็นเวลาสิบแปดปีโดยไม่แต่งงานทำ และจนถึงตอนนี้ก็ยังไม่มีแฟน อาหารที่เธอรับประทานในแต่ละวันเป็นอาหารจาก :ร้านสะดวกซื้อ แม่แต่ในความฝันก็ยังคิดถึงเงินของร้านสะดวกซื้อ ความสะอาดเรียบร้อยของร้านกเบียงตะโกน ทททายว่า “ยีนดีตอนรบ!” ชายวัยเธอนอนหลับอย่างเป็นสุขทุกคน อยู่มาวันหนึ่ง ชิวอะ พนักงานหนุ่มมหาโหลซึ่งมี ษาหมายหาอยู่แดงงานก็ปรากฏตัว เขาพูดจาหิมแทงใจเธอ :ว่าการใช้ชีวิตอยู่ยร้านสะดวกซื้อเช่นหนเป็นสิ่งที่น่าอวย ... คำว่า ‘ปกติ’ คืออะไร? ขอเชิญพบกับผลงานขนาดกะลึงหืด คำถามเกี่ยวกับการดำรงชีวิตในยุคปัจจุบันอย่างเรียบง่าย”

上述したタイ語は「36歳未婚女性、古倉恵子。大学卒業後も就職せず、コンビニのバイトは18年目。これまで彼氏なし。日々食べるのはコンビニ食、夢の中でもコンビニのレジを打ち、清潔なコンビニの風景と『いらっしゃいませ!』の掛け声が、毎日の安らかな眠りをもたらしてくれる。ある日、婚活目的の新入り男性、白羽がやってきて、そんなコンビニの生き方は恥ずかしいと突きつけられるが、…。『普通』とは何か?現代の実存を軽やかに問う衝撃作」という2016年に発表された『コンビニ人間』の単行本の帯に書いてある文章がそのまま翻訳されたものである。この文章から、本作品に対する「普通とは何?」や「現代の実存」を問うことが、一般のタイ人の読み方に影響を与えると推測できる。インターネットやツイッター上で、一般のタイ人の読者は次のような感想を綴っている。

- さすがに芥川龍之介賞を受賞した大傑作だ。
- 作品を読んだら、二つの方向に行く。好きになってしまうか、あるいは嫌いになってしまうかだ。
- 恵子がやったことは理解できなくもない。恵子に共感できる場面もある。
- 現代社会にふさわしい小説である。
- 読んだ後、自分はどのような人間であるか、これからどのように生きていくべきか、いろいろと考えさせられる作品である。
- 二人の登場人物(古倉と白羽)は自分自身の独特の信念、価値観、生き方を持っている。古倉は社会における多数の人々の生活パターンに従わない人間の代表であると思う。だから、社会の規範によって「奇妙」だとか、「異常」だと判断されてしまったのかもしれない。だが、古倉は他人に迷惑をかけない人でもある。古倉と白羽のみならず、作品全体における登場人物は現代社会(日本の社会だけでなく)の人々を投影しているだろう。
- 本作品を読むことによって、新しい言葉や、コンビニでの働くための規則を学ぶことができた。作者は読者を古倉という人物の理解に導いてくれる。彼女は変わり者で、「異常」な人間だと見られてしまうことに彼女自身も悩みがある。他人から「普通の人間」として認められるように、古倉はいろいろ自分自身のことを変えようと努力している。「コンビニ」は古倉のコンフォートゾーンだ。古

倉は常に同僚たちの行動を分析しようとし、彼らを模倣する。なぜなら、古倉は「模倣」することによって、自分が他の人と同じような「普通の人間」になれると考えているからである。だが、古倉より更に「異常」な白羽が新入りの店員としてコンビニに入ることによって、古倉の持っていた全ての自信が揺らいでしまった。『コンビニ人間』を読んでいる間、結局「普通」とは何かという疑問がずっと頭の中に浮かんでいた。

- 作者が社会のある価値観で判断された一人のことを語ることから、読者である我々は皆が言っている「普通」とは何か、どのような基準で「普通」を決めるのか、あるいは我々の「普通」は他人の「普通」と同じようなものなのだろうかという疑問を感じるようになった。古倉は「もう年を取ったのに、どうしてまだコンビニで働いているの?」「どうして就職をしないの?」「彼氏ができたの?」「どうしてまだ結婚していないの?」と度々聞かれていた。定職を持たず結婚のことを考えていないことは彼女を「社会の異物」にしてしまう。自分の生き方がなぜ「異常」なのか、他人を不安がらせるか、古倉は理解できない。なぜ自分の生き方なのに他人によって善し悪しを決められるのか。古倉は自分が何を望むか、どのような生き方を選択したいかということを明確に知っている一方、古倉に疑問を投げ、彼女の行動と生き方を判断する人たちは自分の望みすらまだ把握できないかもしれない。結局、古倉という主人公の決断によって、我々が生きている社会における「善し悪し」、「正常と異常」、「内と外」という様々な定義を決めた人は自分自身なのか、あるいは他人なのかという疑問に気づかされた。

これら一般のタイ人読者の感想から、本作品は比較的好評を得たことが分かる。また、日本国内での本作品に対する評価、先行研究の見解と方向性が近いものであったといえよう。現代社会に相応しい小説でもあり、国の別なくどこでも起こり得ることなので、国境を越えて、現代社会に生きている誰でもが共感できるのであろう。

3 タイ語翻訳について

本作品を翻訳する過程の中でどのような問題に直面したか、または気になる部分があるのかなど、翻訳家であるパンウィモン氏にインタビューで質問したところ、次のように答えてくれた。「一番問題になったのはたぶん日本語の固有の言葉だったでしょう。例えば、料理名や、日本にしかないものなどですね。日本に行ったことがあり、または日本に滞在したことがあるタイ人なら、何となく想像できるでしょう。逆に、全くそういう経験のない人なら、想像できないのではないのでしょうか。こういう時には、どのように説明すればいいのか、そのまま直接翻訳するかあるいは注釈を加えたほうがいいのかと、時々迷うこともありました」パンウィモン氏の回答から、『コンビニ人間』を翻訳するには、「料理名」、「日本にしかないもの」という日本語の固有の言葉

についての翻訳の問題が浮き彫りになってきた。ここで篠原有子氏(2013)の論文を参照しながら、本作品におけるタイ語訳について考察を行っていきたい。篠原氏はペダーセン氏¹⁰の見解に言及し、「言語外文化関連記(Extralinguistic Cultural References)」をECRとし、「文化固有項目(Culture-Specific Items)」をCSIとした上で、このような異文化要素(ECR/CSI)はどのような言葉を指すのか、異文化要素を12領域に分けて説明している。下の表3に示す。下の表3は篠原氏の言葉の表をもとに論者が作成したものである。

【表3】ペダーセン氏の異文化要素の分類

1. 度量衡	7. 娯楽(Coney Island など)
2. 固有名詞(人名、地名、制度上の名称、商標)	8. 教育(college degrees など)
3. 職業上の役職名(Detective Sergeant など)	9. スポーツ(the pitcher mound など)
4. 料理および酒類	10. 通貨
5. 文学	11. 技工物(例 double Alberti feedback loop)
6. 政府(the Foreign Office など)	12. その他

先程取り上げたパンウィモン氏の返答の中、作品を翻訳するには「料理名」、「日本にしかないもの」などという日本語の固有の言葉の翻訳に若干問題あると述べられているため、本論では、『コンビニ人間』における日本語の固有の言葉の翻訳に焦点を当て、どのような翻訳方略が採用され、そして、その翻訳を通して作品への理解、読みにどのような影響を与えるのかをめぐって分析してみたい。

本作品に出てくる日本語の固有の言葉を整理してみると、料理名と日本にしかないものあるいは言葉という二つのグループに分類できる。以下作品の引用は【表3】のどの項目に当てはまるか、引用文の後ろに【表3】で使用した数字を付けることにする。また、篠原氏の論文ではペダーセン氏の異文化要素の翻訳方略が採用されたが、篠原氏の論文は映画の字幕の異文化要素の方略を中心として論じており、注釈の付加が不可能な映画の字幕であるため、文学作品の異文化要素の翻訳方略とはやや差が生じるはずである。本稿では篠原氏が使用したペダーセン氏の翻訳方略の中から、本作品に当てはまる方略のみ採用したい。とりわけ、ペダーセン氏の翻訳方略を適用した本作品における「詳述」という方略を簡単に示しておきたい。篠原氏によると、「詳述」の方略は、「詳述とは、翻訳されない形で提示された異文化要素に情報を付け加える方略で、完成(completion)あるいは付加(addition)という手法を通して行われる(Pedersen, 2011: 79-82)。と説明されている。さて、まず本作品における日本料理名の翻訳について見ていきたい。

¹⁰ Pedersen, J. (2011). *Subtitling norms for television*. Amsterdam & Philadelphia: John Benjamins.

【表4】『コンビニ人間』における料理名の翻訳方略

起点テキスト(ST)	目標テキスト(TT)	翻訳方略
<ul style="list-style-type: none"> 「私は、父と母とまだ小さい妹が、喜んで小鳥を食べているところしか想像できなかった。父は<u>焼き鳥</u>が好きだし、私と妹は<u>唐揚げ</u>が大好きだ。」④¹¹ 	<p>“คนจินตนาการได้แต่ภาพของพ่อ แม่ และน้องสาวที่ขบเล็กปรประทานนหมอยอย่างมีความสุข พ่อชอบ<u>ไคยง</u> คนกับน้องสาวก็ชอบ<u>ไกทอดคาราอาเกะ</u>ที่สุด” (p.11)</p>	直接訳、詳述
<ul style="list-style-type: none"> 「私は機械が作った清潔な食べ物を整然と並べていく。新商品の<u>明太子チーズ</u>は真中に二列に、その横にはお店で一番売れている<u>ツナマヨネーズ</u>を二列に、あまり売れない<u>おかかのおにぎり</u>は端っこだ。」④ (p.9) 	<p>“ส่วนหน้ากำลังจัดเรียงอาหารถูกสุขอนามัยที่ผลิตโดยเครื่องจักรให้เป็นระเบียบ <u>ซาชิมิไข่ปลา</u>ซึ่งเป็นสินค้าใหม่อยู่สองแถวตรงกลาง <u>ซาชิมิทูน่ามายองเนส</u>ซึ่งขายดีที่สุดในตามเรียงอยู่สองแถวด้านข้าง ส่วน<u>ซาชิมิปลาคอดี้โอะตากะ</u>ที่ขายไม่ค่อยดีอยู่ตรงมุม” (p.6)</p>	詳述、詳述、直接訳
<ul style="list-style-type: none"> 「じゃあ、10時ごろちょっと両替行くねー。あ、それと、今日、予約の<u>いなりずし</u>があるから、お客様が来たら対応よろしくね。」④ (p.7) 	<p>“ในช่วงสิบโมงจะไปแลกเงินหน่อยนะ...อะ... แล้วก็มี<u>อินาริซูชิ</u>ที่จองเอาไว้... ฝากลูกค้ามาก็ก่อนตอนรับนะ” (p.9)</p>	音訳(+ 注釈)
<ul style="list-style-type: none"> 「(略)客が買うかどうか悩んでいるように見えるときは、一歩引いて待つことにしている。」「それと、<u>アメリカンドッグ</u>」④ (p.5) 	<p>“แต่เวลาเห็นลูกค้ากำลังลังเลว่าจะซื้อดีหรือไม่ ฉันจะถอยหลังก้าวหนึ่งแล้วมารอแทน” “แล้วก็มี<u>อเมริกันด็อก</u>” (p.7)</p>	音訳(+ 注釈)
<ul style="list-style-type: none"> 「暑い日はサンドイッチが売れ、寒い日は<u>おにぎり</u>や<u>中華まん</u>、パンがよく売れる。」④ (p.24) 	<p>วันที่อากาศตอนเช้าสดชื่นจะขายดี วันที่อากาศหนาว <u>ซาชิมิ</u> <u>ซาเลเปา</u> และขนมปังจะขายดี (p.26)</p>	直接訳
<ul style="list-style-type: none"> 「あと、今日は<u>フランク</u>がセールだから、いっぱい仕込んで！」④ (p.44) 	<p>“แล้วก็มี<u>ฟรังก์</u>ที่ลดราคา เพราะมันเตรียมไว้เยอะๆ เลย!” (p.48)</p>	詳述
<ul style="list-style-type: none"> 「(略)手の甲には三日前に<u>コロッके</u>を揚げたときの火傷のあとが微かに残っている。」④ (p.137) 	<p>หลังมือมีรอยแผลโดนลาวจากๆ ตอนทำ<u>คัร็อกเกะ</u>เมื่อวามรก่อน (p.137)</p>	音訳
<ul style="list-style-type: none"> 「白羽さんが解凍したおかずは、<u>シュウマイ</u>と<u>チキンナゲット</u>だった。」④ (p.143) 	<p>กะขาวที่คืนซื้จะนำโปละลายหน้าแข็งคือ<u>ซิมซึก</u> <u>บักเก็ตไก</u> (p.143)</p>	直接訳、直接訳
<ul style="list-style-type: none"> 「それなのにパスタが<u>焼きそば</u>や<u>お好み焼き</u>と混ざって置いてあり、ちっとも目立っていない。」④ (p.145) 	<p>สิ่งที่มันเป็นแบบนั้นแต่พาสตาสบวางปะปนกับ<u>ยากิโซบะ</u>และ<u>โอโคโนะยากิ</u> ทำให้อะไรดูตาเลเยซกันนิด (p.145)</p>	音訳
<ul style="list-style-type: none"> 「(略)社員なのだろうと納得した様子で、綺麗に並べ終えたばかりの<u>明太子パスタ</u>をとっていた。」④ (p.145) 	<p>อีกฝ่ายก็หยิบ<u>พาสต้าปลา</u>ที่เพิ่งจัดเรียงอย่างงดงามจนเสร็จด้วยตาทางเหมือนเขาใจว่าคงเป็นพนักงานประจำ (p.146)</p>	直接訳
<ul style="list-style-type: none"> 「あと、女性客が多いので、<u>春雨スー</u>プがもっと種類があるといいですね。」④ (p.148) 	<p>“นอกจากนั้น...ลูกค้าผู้หญิงมีเยอะ... ภาวี่อาหารประเภท<u>ซูซึน</u>มากกว่านี้ก็ดี” (p.148)</p>	直接訳

¹¹ 本文の引用は村田紗耶香『コンビニ人間』(文藝春秋、2016)に拠る。

以上の【表4】から日本料理名に関する『コンビニ人間』における異文化要素の翻訳方略は次のようにまとめられる。直接訳の方略が採用されたのは「焼き鳥」、「おかかのおにぎり」、「おにぎり」、「中華まん」、「シュウマイ」、「チキンナゲット」、「明太子パスタ」と「春雨スープ」という言葉である。「いなりずし」、「アメリカンドッグ」の場合は音訳を用いた上で、ページの下の部分に注釈が加えられている。特に、「アメリカンドッグ」では、似たようなタイのおかしの例を取り上げ、比較させながら、本物を見たことがないタイ人の読者でも「アメリカンドッグ」が想像しやすいように注釈がされている。

また、詳述方略を使用したのは、「唐揚げ」、「明太子チーズ」、「ツナマヨネーズ」、「フランク」である。「唐揚げ」を翻訳するには “ทอด”(フライドチキン)という言葉を加しても訳出したタイ語の言葉には支障がなかった。「明太子チーズ」と「ツナマヨネーズ」には両方**อาหารเย็น**(おにぎり)という言葉を加加することにした。これはタイ語に訳す時、既に**อาหารเย็น**(おにぎり)という言葉が含まれる「おかかのおにぎり」とは翻訳が異なるためである。「フランク」の場合、“ไส้กรอก”(ソーセージ)という言葉を加加した。このように、言葉を付け加えることによって、具体的にその料理がどのようなものか、日本文化にあまり親しみのないタイ人の読者でも理解しやすくなる。

次に日本特有のもの、あるいは日本語の固有の言葉の翻訳方略を検討してみたい。

【図2】「ポーンネン」というタイのお菓子

<https://www.pinterest.com/pin/218143175689054002/>

【表5】『コンビニ人間』における日本語の固有の言葉の翻訳方略

起点テキスト(ST)	目標テキスト(TT)	翻訳方略
• 「支払い、 スイカ で。」⑩ (p.5)	จ่ายด้วย บัตรเครดิต (p.8)	詳述(+注釈)
• 「大学に入ったばかりの頃、学校の行事で 能 を観に行き、友達がいなかった私は一人で帰るうちに道を間違えたらしく、(略)。」⑦ (p.14)	“ช่วงยามมหาวิทยาลัยใหม่ๆ ฉันไปดูละครใบ้ ในงานกิจกรรมของโรงเรียน ระหว่างเดินทางกลับเพียงลำพังเพราะไม่มีเพื่อน ก็ดูเหมือนว่าฉันจะจำทางผิด” (p.16)	詳述(+注釈)
• 「自分と同じ大学生くらいの女の子や、 フリーター 風の男の子に、少し年上の主婦と思われる女性、(略)。」③ (p.15)	“ทั้งเด็กสาวดูเหมือนนักศึกษามหาวิทยาลัยดลยากับฉัน เด็กหนุ่มที่เหมือนจะเป็น ฟรีแลนซ์ และหญิงสาวอายุมากกว่าเล็กน้อยที่คิดว่าน่าจะเป็นแม่ชาน” (p.18)	音訳(+注釈)

起点テキスト(ST)	目標テキスト(TT)	翻訳方略
<ul style="list-style-type: none"> 「私はバックルームで見せられた見本のビデオや、トレーナーのを見せてくれるお手本の真似をするのが得意だった。」⑫ (p.16) 	<p>“จนเกิดการเลียนแบบจากวิดีโอตัวอย่างที่ดูในแบ็ครูม และตัวอย่างที่ฝึกสอนทำซ้ำดู” (p.19)</p>	音訳(+ 注釈)
<ul style="list-style-type: none"> 「いつも家に帰るとすぐに、狭い六畳半の敷きっぱなしの布団の上に身体を横たえる。」⑪ (p.16) 	<p>“เมื่อกลับถึงบ้านจะเอนตัวนอนบนฟูกที่ปูทั้งห้องแคบๆ ขนาดหกสิบครึ่งหนี่” (p.24)</p>	直訳(+ 注釈)
<ul style="list-style-type: none"> 「まあまあ、まだ習うことはいっぱいあるよー!じゃあ古倉さん、フェイスクからよろしく! 俺もあがって今日は寝るわー。」② (p.47) 	<p>“เฮ้ย! เรื่องที่ต้องเรียนรู้อีกเยอะเลย! คุณฟุคุระฝากเฟสบุคด้วยนะ! ฉันจะเลิกงานวันนี้ไปนอนแล้ว” (p.50)</p>	音訳(+ 注釈)
<ul style="list-style-type: none"> 「だって、縄文時代からそうじゃないですか。」② (p.49) 	<p>“มันเป็นอย่างหมวมตงแต่ยุคโจมงแล้วไม่ใช่หรอครับ” (p.52)</p>	直訳(+ 注釈)
<ul style="list-style-type: none"> 「ウォークインから在庫を出して白羽さんに在庫を並べる説明をすると、私は急いで自分の仕事に戻った。」② (p.49-50) 	<p>“พอเอาสต็อกออกมาจากวอล์กอิน แล้วอธิบายการจัดเรียงสต็อกสินค้าให้คุณชิราสะฟังเสร็จ ฉันก็รีบกลับไปทำงานของตัวเอง” (p.53)</p>	詳述(+ 注釈)
<ul style="list-style-type: none"> 「(略)私は小さい頃あそんだ影送りを思い出して、目をこすった。」⑦ (p.80) 	<p>“ฉันนึกถึงการเล่นคางะโอะคุริ ที่เคยเล่นเมื่อสมัยยังเล็กแล้วซ้ำตา” (p.82)</p>	音訳(+ 注釈)

以上の【表5】から見られるように、音訳が圧倒的に適用されている。また、注目すべきは、ここでもかなり詳述方略も採用されていることである。例えば、「スイカ」には“**การ์ด**”(カード)、「能」には“**ละคร**”(ドラマ)、「ウォークイン」には“**ตู้เย็น**”(冷蔵庫)という言葉が付加されている。だが、料理名の翻訳と同じような単一な言葉を付加しても、タイ人には想像し難いため、注釈も付け加えられた。【表4】と【表5】を纏めて分析してみると、次のような結果が明らかになる。本作品全体における異文化要素の翻訳方略については、直接訳、音訳と詳述という方略が採られた。「焼き鳥」のような、タイに同じような種類の料理がある場合は直接訳が採用された。料理名の翻訳を詳述の方略で済ませるのは、日本料理がタイで比較的に認知度が高いと判断されたためであろう。一方、日本特有のもの、日本の固有な言葉の場合、音訳、詳述の方略の回数が直接訳を上回っている。これは本作品の異文化要素の翻訳志向は起点志向に傾いていることの表れであり、作品内の日本文化の雰囲気を保ちながら、タイ人の読者が作品や日本文化をより一層理解することに繋がるだろう。

最後に、単語のレベルのみならず、作品に出てくる日本の固有な挨拶表現の翻訳を一つの例として取り上げたい。これは変なお客さんが店に入って他の客を一々と注意し、古倉が迅速に対応して終わった場面である。ここは店長と泉という登場人物との会話をみたい。

ST 「じゃあ俺、あがるわー。今日も夜勤だし」

「お疲れさまですー。あ、そうそう、店長、白羽さん、今度注意してもらえますか？

あの人、サボり癖があって、私が言っても駄目なんですよー」(p.59)

TT “ฉันเหนื่อยนะคะ” “อะ จริงด้วยผู้จัดการ คราวหน้าช่วยตักเตือนคุณชิวาอะได้ไหมคะ คุณคะหนะขอ

บ่ได้งาน ฉันพูดอะไรไปก็เปล่าประโยชน์” (pp.61-62)

タイ語では日本語のように、「お疲れさまでした」や「ご苦労さまでした」という特別の挨拶表現がなく、仕事が終わる時など、相手に感謝の気持ちを表わすため、タイ人は代わりに「ありがとうございます」という表現を使う。上の文の下線部分「お疲れさまです」は、タイ語の訳出ではペダーセン氏が提示した「置き換え」という翻訳方略により「疲れましたね」という表現が使われた。もともと、タイは仕事をしてくれる人に対して、「お疲れさまでした」という表現を使う習慣がないので、ここで直接訳すれば不自然なタイ語になってしまうだろう。つまり、それではこれはタイの社会背景に合わせ、この異文化要素の翻訳志向は目標志向になってしまうわけである。

4 本作品に対するタイ人日本語学習者の読み方

第二章では、本作品に対する一般のタイ人読者の読み、感想などを紹介したが、本章では「普通を問う作品」以外、タイ人の日本語学習者は本作品を通してどのように日本文化を受容するのかということに触れてみたい。対象者はタマサート大学の院生4名で、日本語能力の内訳はN2が3名、N1が1名である。全員が日本に行った経験あるいは滞在した経験がある。3名は現在日本に関する仕事、とりわけ日本人に接触する機会が多い通訳者をしている人達である。これらの4名は日本語版とタイ語訳版両方を読んだ。本作品に対する学習者の主な意見、興味を本作品日本語版からの引用を交え、以下のように分類する。

① 日本の働く様式と文化

コンビニで働いているのは、アルバイトとしての仕事だが、ある程度日本人の働く価値観を反映している。作品全体では、コンビニの厳しい規則の下で働かなければならないことや、コンビニのため貢献すべき店員の姿が古倉という登場人物を通して描かれている。コンビニにおいて割り当てられた役割があり、それぞれの店員に委ねるシステムがある。

各店員は、その規制を順守し、コンビニが期待する質の高い店員になろうとしてい

る。全員が同じ方向に行動すると、連帯感が生まれる。店員がうまく仕事すれば、コンビニ作業のシステムを安定させるほか、コンビニの高い売り上げにも繋がる。つまり、店員の能力は直接コンビニの運営に影響を与えるといえる。

「私たちは、お客様に最高のサービスをお届けし、地域のお客様に愛され、選ばられるお店を目指していくことを誓います！」(p.45)

上の引用は、自分の所属している機関、あるいは国を重要視する日本社会の概念を反映している。その機関の一員あるいはその国の国民として皆が献身的に力を尽くすべきである。従って、そのような連帯感を維持するため、社会の規範の中で皆が同じような行動を取らなければならない。「出る杭は打たれる」という諺のように、規範外のようなことをしてしまったら、日本人にとってよくないことになるだろう。このような状態を保つため、度々自分が考えていること、したいことは社会では許されない。これは連帯感を重視する日本人の価値観の一律性を反映し、つまるところコンビニは日本の社会を投影しているといえるのではないか。

② 日本社会におけるジェンダー

まず、日本の社会における男女の役割についての意見を取り上げたい。作品中の「男なら働け、結婚しろ、結婚したらもっと稼げ、子供を作れ」(pp.100-101)から、現代社会になっても「男性は外で働く、女性は家で家事をする」という概念はまだ根強く日本の社会に固定しているように見られる。そのようなわけで、30代にもなり結婚もせずにアルバイトを続ける古倉が周囲に奇妙に見られるのは当然なことである。これは以下の引用から闡明に描出されている。

「二十代前半のころは、フリーターなど珍しいものではなかったので特に言い訳は必要がなかったが、就職か結婚という形でほとんどだが、社会と接触していき、今では両方ともしていないのは私しかない」(pp.35-36)

以上のような女性の役割が社会から期待されていることが作品に反映されている反面、男女のジェンダー的固定観念を破壊しようとする部分もある。大切なのは自分と異なっても他人のアイデンティティーを認めることであるという意見も出た。

「白羽さん、今は現代ですよ!コンビニ社員はみんな男でも女でもなく店員です!
あ、バックルームに在庫があるんで、それを並べる仕事も一緒覚えちゃいましょう!」
(p.49)

また、この点について、ある学習者は人間の価値観といえば、性別によるものではなく、仕事の成果から判断すべきだという意見を付け加えた。上述したことの他、性的ダイバーシティが認められるようになってくる現象も描写されていることを本作品から読み取る学習者もいた。例えば、以下のような部分である。

「あのさ、私けっこう同性愛の友達とかもいるしさあ、理解あるほうだから。今はアクセシブル?とかいうのもあるんだよね。」(p.37)

これは「Diversity & Inclusion Know Differences, Show Differences. ちがいを知り、ちがいを示す。」というTOKYO OLYMPICS 2020のアクションワードであり、ジェンダー・ダイバーシティが認められるようになってきていることを表わす一つの例であるといえるだろう。このようなことは前の文学作品にはあまり見られなかったが、日本が徐々にジェンダーに関する姿勢を改善していく方向にあることが分かる。しかしながら、「女というだけで寄生虫ということを許されている奴等に」(p.115)とあるように、性差別という概念は日本の社会にまだ残っていることは否定できないだろう。伝統的な習慣に強く執着してきた日本であるため、保守的な価値観を持つ人も少なくなく、自分と異なる考え方をまだ認められない人も多数であろう。

③ 「コンビニ」の文化

日本のコンビニ業界はかなり規模が大きいようである。様々な食べ物のみならず、消費生活商品に至るまで備わっているため、お客さんにとって便利なところである。タイのような「屋台」文化がない日本では、コンビニが必要不可欠な場所であろう。自炊またはレストランで食事をしないなら、コンビニは食事を調達するための一つの良い選択肢になる。日本の各コンビニメーカーでは、客のために質の高い商品を提供するために激しい販売競争が行われている。日本のコンビニは商品を販売するばかりではなく、いろいろなサービスを提供していることも周知である。また、コンビニでの仕事はアルバイトとして雇用されているものの、ここからの収入は大学生、主婦などにとって生活ができる一つの手段となり得るのではないか。

以上の三項目以外、フリーターの数の増加や、晩婚、超少子化の問題を表わす作品であるという意見も出た。異文化の視点で作品を読んだタイ人学習者からは、本作品が「普通を問う」作品であるということの他に、別の観点をも捉えていたことが見て取れた。『コンビニ人間』は正に日本現代社会を反映し、日本の直面している深刻な問題を表わしているだろう。

5 まとめ

本稿では村田紗耶香『コンビニ人間』のタイ語翻訳と文化の受容について明らかにしてきた。本作品はタイでも人気が高く、作品のテーマに対してもタイ人読者は理解または共感できると言えよう。そして、本作品における日本料理名、日本の固有のものという異文化要素の翻訳方略について分析した。直接訳、音訳と詳述という方略が最も多く採用されたことが分かった。特に、料理名の翻訳を詳述の方略で済ませるのは、日本料理がタイで比較的认知度が高いと判断されたためであろう。また、全体の翻訳志向は起点志向の傾向があり、様々な注釈を付加することによって、作品内の日本文化の雰囲気を保ちながら、タイ人の読者がより一層日本文化を理解できるような方略が採られていた。

更に、日本文化にある程度親しみのある日本語学習者の読者の、本作品に対する文化の受容についても触れた。一般のタイ人読者と異なり、日本語学習者の読者は別の観点を提示した。本作品は「普通とは何か」を問う作品のみならず、様々な日本現代社会問題を反映している小説でもある。村田紗耶香の抜群な文体を鑑賞しながら、彼女が巧みに描出した日本社会、あるいは日本文化を理解する傑作といえるだろう。

参考文献(Bibliography)

- 村田紗耶香(2016)『コンビニ人間』, 東京: 文藝春秋. Murata, Sayaka(2016) *Convenience Store Woman*. Tokyo: Bungeishunjū.
- 村田紗耶香(2018)『コンビニ人間』, 東京: 文藝春秋. Murata, Sayaka(2018) *Convenience Store Woman*. Tokyo: Bungeishunjū.
- 飯田祐子(2019)「村田紗耶香とジェンダー・クイアー『コンビニ人間』、『地球星人』、その他の創作」『超域的日本文化研究』第10号, p.48. Ōda, Yuko(2019) Murata Sayaka, Genderqueer, Non-human, Convenience Store Woman, Earthian, *JunCture* Vol. 10, p.48.
- 篠原有子(2013)「映画『おくりびと』の英語字幕における異文化要素(日本的有標性)の翻訳方略に関する考察」『翻訳研究への招待』第9号, p.81. Shinohara, Yuko(2019) A Study of Strategies for Translating Culture-Specific Items in the English Subtitles of the film *Departures*, *Invitation to Translation Studies* Vol. 9, p.81.
- 橋本夏希(2019)「村田紗耶香『コンビニ人間』論—「普通」と「異常」の間で—」『玉藻』第53号, p.46. Hashimoto, Natsuki(2019) Murata Sayaka, Konbininingen Ron Futsū to Ijō no aida de, *Tamamo* Vol. 53, p.46.
- 文藝春秋(2016)「我らコンビニ出身作家」『文藝春秋』9月号, p.14. Bungeishunju Ltd.(2016) Warera Konbini shussin sakka, *Bungakukai* Vol. September, p.14.
- 矢野千晶(2017)「差の消滅—村田紗耶香「授乳」から「コンビニ人間」まで—」『同志社女子大学日本語日文学』第29号, p.121. Yano, Chiaki(2017) Sa no shōmetsu Murata Sayaka Junyū kara Konbininingen made, *Doshishajoshidaigaku NihongoNihonbungaku* Vol. 29, p.121.

インターネット

- Katy Waldman. (2018.12.4) The Best Books of 2018. Access date : 2020.11.5.
(<https://www.newyorker.com/culture/2018-in-review/the-best-books-of-2018>)
- Nithisa.L. (2020.1.11) Murata Sayaka *Convenience Store Woman* Book Review. Access date : 2020.11.6.
(<https://medium.com/a-reader>)
- PLB. 2016年8月11日. 芥川賞のすべてのようなもの. 2020年11月2日閲覧. PLB. (2016.8.11) Like All of Akutagawa Ryunosuke Prize. Access date : 2020.11.2.
(<https://prizesworld.com/akutagawa/senpyo/senpyo155.htm>)
- 横山英美. 2018年12月18日. 村田沙耶香の小説『コンビニ人間』が、米雑誌『ザ・ニューヨーカー』が選ぶ「The Best Books of 2018」に選出！. 2020年11月5日閲覧. Yokoyama, Fumi. (2018.12.18) BOOK : CONVENIENCE STORE WOMAN BY SAYAKA MURATA
(<https://www.gqjapan.jp/culture/bma/20181218/sayaka-murata>)
- 渡辺由佳里. 2018年7月19日. 英語圏ではわかりにくい『コンビニ人間』の日本的背景. 2020年11月5日閲覧.
Yukari.Watanabe. (2018.7.19) Eigokendewa wakrinikui *Convenience Store Woman* no nihonteki haikai.
Access date : 2020.11.5.
(<https://www.newsweekjapan.jp/watanabe/2018/07/post-48.php>)

インタビュー

- Sirisereewan, Chanida. 著者によるインタビュー、バンコクにて, 2020年11月6日.
- Sirisereewan, Chanida. An Interview at Bangkok. 2020.11.6.
- Japanese Book Section - Kinokuniya Book Store (Thailand) Co., Ltd. 著者によるインタビュー、バンコクにて, 2020年10月9日.
- Japanese Book Section - Kinokuniya Book Store (Thailand) Co., Ltd. An Interview at Bangkok. 2020.10.9.
- Jitraviriyagul, Parvimol. 著者によるインタビュー、バンコクにて, 2020年10月19日.
- Jitraviriyagul, Parvimol. An Interview at Bangkok. 2020.10.19.